

■■■ 「多文化共生」を考える研修会2015 ■■■

8月19日、21日、26日、28日の4日間にかけて、「『多文化共生』を考える研修会2015」を開催しました。4日間を通して、330名を超える出席者となり、特に4日目のムスリムを知るフィールドワークはモスクの広さの関係上、多数の方をお断りしなければならない状況でした。

今回のトップバッターは、中国残留孤児2世でノンフィクションライターの城戸久枝先生にお越しいただきました。1世である城戸先生のお父様が、日本へ帰国するかどうか悩みに悩んだ時のお気持ちを生の声で聞かせていただき、戦争によって引き起こされた悲劇を決して忘れるべきではないと思いました。城戸先生は中国での優しい養母との出会い、文化大革命などのあった厳しい時代にも関わらず親しい友人ができたお父さまの経験などから、「国籍より人と人の繋がりが大切である」と締めくくられました。

2コマ目は、お茶の水女子大学名誉教授の宮島喬先生から、「多文化であることとは—新しい市民社会の条件—」というタイトルで、

ヨーロッパの状況と比較して、日本での多文化共生社会のづくり手、担い手が日本人主導であることへの問題提起をしていただきました。

2日目は「外国にルーツを持つ子どもの教育」ということで、神奈川県大和市教育長の柿本隆夫先生から、良かれと思って何気なくしてしまう日本人の「抑圧的な部分(同化圧力)」をそぎ落としながら、傍に居続けることの大切さと、多文化共生に伴う反発や融合が社会の豊かさに繋がっていく、というお話をさせていただきました。

2日目の2コマ目は、青少年自立援助センターの田中宝紀先生より、自立支援活動として取り組んでおられる事業のお話を中心に伺いました。

3日目の1コマ目は、兵庫県立大学教授の野津隆志先生と釜山大学研究員のイ・ヘジン先生より、それぞれの大学の学生の「多文化共生」意識調査についてお話しいただき、それぞれの国の好感度は、交流があると上がるという結果などを伺いました。

2コマ目は慶応大学教授の柏崎千佳子先生より、「日本社会での『多文化共生』を考える — 比較の視点から」というテーマでお話いただき、最後に、メディアで取り上げられるごく一部のセンセーショナルな事件からすぐ断定的な結論に飛びつかないことの大切さを改めて教えていただきました。(志岐 良子)

以下は、4日目の研修会の報告です。

【異文化と生きる～ムスリムを知るフィールドワーク～】

「トルコ人から見たイスラム世界」と「神戸ムスリムモスクのフィールドワーク」の研修が、8月28日に、海外移住と文化の交流センターと神戸ムスリムモスクで行われました。参加者は関係者含め80名で、イスラムというものに対する関心が非常に高いことがうかがわれました。

◆「トルコ人から見たイスラム世界」 講師：アフメット・イルマズさん

講師のアフメットさんは、トルコ料理店のオーナーシェフで奥さんは日本人で3人の息子さんがいます。初めに、イスラム圏で日常使われている挨拶の言葉“セラームアレイキユム”（行った時も帰る時も使える便利な言葉）、イスラム人口は約16億人で世界人口の約23%を占めていることなどの紹介があり、それから、イスラム教（イスラーム）の概要やトルコ・トルコ人とのつながりについて説明がありました。イスラム教徒（ムスリム）としてしなければならない5つのこととし

て、信仰告白を理解し信じてとなえること、1日5回の礼拝をすること、1年の内1カ月間の断食をすること、貯蓄の中から2.5%の寄付をすること、一生に一度マッカへ巡礼に行くこと（十分な財産と健康な身体があれば）があること、イスラム教として信じなければならない六つのことなどを教えてもらいました。その他質問に対して、1890年に和歌山県串本町沖で座礁・大破したトルコの軍艦から遭難者を地元の人が救助した話はトルコの小学校で教えられており、日本・日本人に対する興味のキッカケとなっていること、ハラール食品のこと、中国のウイグル族のこと、ヨーロッパとアジアの間のトルコの立ち位置のこと、結婚のこと、10才までに行う男の子の割礼のことなど様々な説明がありました。

◆「神戸ムスリムモスクのフィールドワーク」 講師：新井アハサンさん（神戸ムスリムモスク理事長）

神戸ムスリムモスクは1935年に日本で初めて建設されました。モスクは戦前はここを含め2カ所のみでしたが、現在は100カ所位ありますが、関西では4カ所のみです。唯一神の意味のアッラー、神の使徒のムハンマド、イスラム教の教えの言葉、イスラム教とは生き方であることなどの説明、質疑応答の後、モスク内を見学しました。当日は金曜日で、一週間の内で一番大事な礼拝の日ということでその前の4時過ぎに解散しました。

現在、イスラム教・イスラム教徒に関して、マスコミでいろいろな形で紹介されていますが、我々はもう少しこれらのことに対して関心を持ち、理解もしていかなければならないと思います。今回の研修が多文化共生を考える一つのステップとなればと思います。

（ニュース係 川淵 啓司）

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆生活日本語クラス夏パーティー～いろいろな国のアルファベットの紹介と日本語の発音についての話で楽しみました～

7月29日の11時からKFC事務所の教室スペースで、生活日本語クラスの夏パーティーが行われました。ベトナム・イギリス・インド・タンザニア・モロッコ出身の学習者8名、支援者11名が参加しました。

まず、ベトナムの学習者が持ってきたフルーツとスイーツをいただきました。フルーツはクワブイとクワカップという名前のもので、スイーツはラオカウという名前のもので、どちらも独特の大変おいしいものでした。

次に、第1部として、モロッコのエルバヒアさん、インドのニーラムさんとタンザニアのモーザさんから、それぞれアラビア語とヒンディー語とスワヒリ語のアルファベットの書き方・読み方を紹介してもらいました。右から書くアラビア語を出席者の名前で教えてもらいましたが、文字の形が我々にとって少し異質でなかなか難しそうです。ヒンディー語も象形文字のような、記号のようなデーバナーガリ文字で、難しそうですが、エキゾチックな気分させます。スワヒリ語は英語のアルファベットと同じため、何となくとっつきやすく、いろいろな挨拶の言葉を教えてもらいましたが、私が唯一知っている“ジャンボ”（こんにちは）も出てきました。それぞれの国の文字・言葉は、その国の長い歴史・文化を感じさせます。

第2部は、言語聴覚士の森さんから“日本語の発音”についての説明がありました。

我々が使う日本語は、米語と比べて低い音（周波数が低い）で、単語の中での高低のアクセントはあるが、強弱のアクセントを変えずにしゃべるということや、発音のポイントとしての長音

「ー」、撥音「ん」、促音「っ」を理論的に説明してもらいました。学習者だけでなく、支援者にとっても非常に興味深い話でした。（注：言語聴覚士はスピーチセラピストともいい、脳に障害を受けた方の聴覚・言語障害の対処法を見出し、必要に応じて訓練・指導・助言などを行います。）（ニュース係 川淵 啓司）

◆文化庁委託事業 報告

① 2015年8月5日、15時半よりユニティの和室で「中国帰国者とその家族対象」の日本語教室の連絡会を行い、「中国『残留邦人日本人孤児』を支援する兵庫の会」、「神戸中国帰国者日本語教育ボランティア協会」「KFC」の支援者16名が参加しました。

文化庁委託事業で3年前にやり始めた連絡会でしたが、それぞれの教室の支援者は顔見知りとなり和やかな雰囲気の中で会は進みました。今回は特にテーマを決めていなかったので参加者にこの場で話し合いたい事、気になっている事を言ってもらい、時間の許す限りテーマ別に意見を出し合いました。

多くの方は、帰国者の高齢化が気になっていました。介護、学習の事もですが、中国時代の話を子どもに伝えているかどうかという話で意見が多く出ました。広報活動に二世三世の家族にも来てもらいたいとか、親子間より映画や小説で伝えるほうがより客観的で伝わるのではないかと、当事者（孤児であった支援者）の方に実情をお聞きすると「夫婦では色々な経験について話をするが子どもとはしない。日本で育っているので話をしてもわからないと思う。でも自分の親が満州へ行った経緯とかのことは知りたいだろうなあ。」と話してくださいました。

他のグループではどんな活動をしているかなど、多くの情報交換もできました。盆踊りはどの教室でもリクエストが出ていて、それぞれ機会があれば取り入れているそうです。歌や映画、畑活動の様子は帰国者から教室を超えて支援者に伝わっているそうです。

話し合いたいこと全てを取り上げることはできませんでしたが、年1,2回このような機会があるといいし、今日参加していない教室にも参加を呼び掛けたいねということになりました。

猛暑続きの夏の真ただ中、開催のご協力やご参加いただきました皆様、どうもありがとうございました。

② 2015年8月25日、13時半より「日本語教育連携の集い」を（公財）神戸国際協力交流センター（KIC）と共催で行いました。参加者は24名、11団体から来られていました。前半はKFCが、後半はKICが進行を担当して会を進めました。

前半には、自己紹介とそれぞれ活動している団体の紹介を行いました。ボランティアでやっているところ、日本語教師がやっているところ、大人対象か子ども対象か、成り立ちも目的もやり方も違いますが、神戸市内外には数多くの日本語が学習できる場があることがわかりました。どの団体も外国人の日本語学習を支援したいという思いは共通です。

それから3年前から取り組んできた学習記録簿についての話を私から、支援全般に係る話をKFC支援者の高橋博子さんからさせていただきました。

後半は、グループに分かれて自分の指導や団体についての悩みや疑問点を話し合いました。一人一人話したいことは山のようにあります。グループの人全員が話せるように持ち時間が決められました。短い時間でしたがそれぞれ思いっきり話をして意見を言い合いました。その後グループで話し合ったことを全体で共有しました。まだまだ話はずきませんでした。予定時刻を過ぎてしまい名残惜しいまま終了となりました。

普段は一人だけや限られた教室のメンバーだけでの活動なので、この日のような教室を超えて支

援者同士が話し合える場合は、視野が広がり連帯感も生まれ、また頑張ろうという励みにもなります。今回は共催したことにより、参加教室の数が増え、神戸市の日本語教育の実態がよりつかめたのではないかと思います。団体同士のつながりや支援者同士が集まれる場所を今後とも作っていく必要があると感じました。参加者の皆様、どうもありがとうございました。（奥 優伽子）

■■■KFC外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■

◆夢を語る会

8月5日(水)、KFCで学習する中学3年生から後輩へのメッセージを語る「夢を語る会」を開催しました。

これは、中学3年生になってやっと学習を頑張りだした3人から、中学1, 2年生の時の反省をもとに、後輩たちの学習意欲向上に一役買ってほしいとお願いして開催することになったものです。

KFCの監事であり、高校教員でもある片田 孫 朝日さんにコーディネートをお願いして、中学生たちとのミーティングを7回程度行いました。当事者として様々な活動に参加してこられた片田さんからの「楽しい会」に!、という想いに応えるべく、まずは、どんな会にするか、会の名前をどうするか、場をほぐすためのアイスブレイクをどうするか、また、どんなことを後輩に向けて語りたかなどを何度か話し合いました。当日は、一文字看板の作成や自分の語る夢のリハーサルなどを行い、本番を迎えました。

最初に開会の挨拶があり、続いて「声を出さずに誕生日順に並ぶ」、「〇〇と言えば」という2つのアイスブレイクの後、3人が夢を語りました。1人目は、日本社会や日本の教育についてあまり知らないベトナム人の親に頼らずに、頑張っ勉強をして大学に行き、大企業に就職した姉を見て、自分も大企業に就職したいと思って頑張っ勉強しているという男子の話でした。2人目は、ビジネスをしたいので商業高校を目指している、英語やR&Bが好きで、アメリカ人のフレンドリーな生き方や個性を尊重する生き方も見てみたいので、海外の会社で働きたいという話、最後3人目は中学校での生徒会や部活の経験から、忙しく過ごすことや人の面倒を見るのが好きだという自分の性格がわかり、看護師を目指しているという夢を語ってくれました。最後のあいさつの後は、たくさんのお菓子を囲んで皆で談笑し、終了しました。

参加した後輩の中学生たちからは、「夢や目標に向かって頑張る3人はかっこよかったし、とてもステキでした。今のうちに頑張ろうと思いました。そして、自分の夢をかなえたいと思います」「先輩とこれまであんまり話していなくて、考えや思いがわからなかったけど、話を聞いて、いいなあと思いました」「今日の会ではいろんな事思いました。例えば、学習や将来のことです。今頑張れることをあきらめず頑張りたいです」などの感想がありました。

当日は司会や挨拶含め3人だけで会を進め、大人は見守るだけでしたが、3人は立派に会を盛り上げてくれ、小学校低学年時からKFCで学習してきた3人の著しい成長を感じる時間となりました。この会が成功したのは、中学生ができる範囲を考えながら、3人の力を信じて、会の構成を考え、ミーティングを重ねて下さった、片田さんのお蔭だと思います。お忙しい中多くの時間を割いてくださった片田さんにこの場を借りて感謝申し上げます。（志岐 良子）

◆この夏をとおして感じたこと～教育ではなく共育～

はじめまして。私は、兵庫県立大学3回生の鈴木裕子です。経済学部の国際経済学科を専攻しています。高校のときから外国人労働者やEPA、NPOなどに興味があり、大学のゼミ担任の野津先生の紹介で6月からインターンシップ活動でコーディネーターとして週に一度、KFCの子ども学

習支援活動に参加しています。この2ヶ月、まだ2ヶ月ですが本当に毎回たくさんの経験を子どもやKFCからさせて頂いております。21年間生きてきて私が当たり前にしてきたことが、ここにきている子どもたちにとっては当たり前ではない苦労を日々実感します。

私がここにきてまず苦労したのが、名前と顔の一致。どれが名前で苗字なのかわからず毎回必死でした。私の中でなんとなくその子の国や家庭の事情を聞いたら失礼、何か嫌な思いをさせてしまうのではないかという暗黙のルールを作ってしまったこともあり、覚えることにとても苦労していましたが、ある日ベトナム人と中国人の女の子が「先生は韓国人？中国人？名前は？漢字教えてよ、私も教えるから」と言ってきてくれてコミュニケーションをとるうちに私も自然とその子達自身のことを聞くことができ、私が勝手に作ってしまったルールとは全く違い、逆に子どもたちは自分のことをもっと聞いて欲しいことが分かりました。そのときから、すんなり名前を覚えることができ私の中で作っていた壁がなくなりました。コーディネーターとして、人としていけない考え方を今までできてきたのかもしれないと思い反省しました。

次に苦労したことは、言葉です。日本にきて長い子は会話ができませんが、まだ間もない子はまったく通じません。中国人の中学生の子をみた時に、まず日本語がわからないので問題すら読むことができません。もちろん、内容すら理解できません。私も中国語を話すことができないのでなんとか漢字とゼスチャーで会話をしたのですが、一問を理解するのに30分以上かかりました。そんなとき、まだKFCでは中国語を話せるコーディネーターがいるだけ大丈夫ですが、日々の中学校生活はこの子にとって大きなストレスではないかと思いました。

言葉の壁から学ぶことが嫌になってしまう・・・この気持ちをKFCや私自身でなんとか緩和、なくすことができるようにしたいと強く思いました。この子だけでなく、生活困窮者の学習支援でも同じような子はいました。当たり前のように生活でき、きちんとした教育を受けている子どもは日本、神戸にはどれくらいいるのでしょうか。KFCやKFC同様のNPOをもっと学校や日本全体が知るべきであり、行動すべきであると思います。子どもたちがただ教育を受けるだけでなく、心身ともに共育できる環境を整えるべきです。そうすることで、子どもたちだけでなく私自身の共育にもなります。そのような環境であるKFCは私たちにとっても子どもたちにとっても大切な居場所です。今後また、新しい体験や経験を楽しみに、子どもたちと一緒につくっていきたいと思います。（鈴木 裕子）

◆夏休みの工作教室

8月20日（木）に夏休み恒例の工作教室を開催しました。今回も山本則子先生のご協力を得て、参加者20名で行いました。

まず山本先生より、紙粘土を使ったお弁当と、同じく紙粘土を使った指人形の説明があり、それぞれどちらかを選択してから制作に取り掛かりました。

お弁当を選んだ子たちは、プラスチックのお弁当ケースに紙粘土や毛糸、色紙などで作成したお寿司やスパゲティ、サラダ、果物などを詰め込んでいきました。食品サンプルに負けない本物と見間違えるようなお寿司を作っている子もいました。最後にお弁当に名前をつけてもらいましたが、「毒入りお弁当」という恐ろしい物を作成した子もいました。

指人形の方は、宇宙人や怪獣、人間など色々な指人形を作成しました。お弁当づくりに比べると工程が難しく、みな少し時間がかかっていました。

KFCを卒業して、現在学校教員になっている中国人青年が夏休みということで覗きにきて中国語でサポートしてくれ、またドーナツの差し入れもしてくれたのを、みんなで美味しくいただきました。

終わり頃には、高校1年生になった卒業生も突然現れ、高校での頑張っている様子を聞いたりす

ることもでき、夏休みのよい時間となりました。

◆生活困窮者学習支援事業

7月24日から8月31日までの主に月・火・木に生活困窮家庭の小学4年生から中学3年生までの外国に関わりのある子どもを対象とした学習支援事業を実施しました。

これは、神戸市が数年前から実施している事業の長田区の試行型プログラムとして、神戸市より受託し実施することになったものです。

実施前には、生活保護の仕組みや生活困窮家庭の子どもの状況や高校進学に関する話などのスタッフ研修を行い、個人情報保護に関する書類にもサインしてもらって、実施しました。

参加した中学生の中には、日本生まれですが、簡単な漢字の読み書きもほとんどできない、アルファベットも覚えられていないなど、自宅で一人で学習するのが難しいような子どももいました。

子どもたちは、最初に申し込んだ日程にはほぼ参加し、「家でも勉強する気になった」「KFCの通常の学習支援プログラムにも参加したい」など前向きな声を聞くことができました。

貧困が子どもの学力へ影響することは既に明らかになっていることですので、今後もこの事業が継続するよう願っています。

(志岐 良子)

■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

◆「料理教室」に参加して

料理教室は、2回目の参加です。今日のメニューは「煎餃」、中国の「焼き餃子」です。正午過ぎに会場に着くと、すでに料理は出来上がりつつあり、いい匂いが漂っていました。初めて参加した時も、その量に圧倒されたのですが、今回も、ずらっと調理台に並べられた餃子の数に、ただただ圧倒されました。全部で500個は下らなかったのではないかと思います。「たかが餃子、500個くらい！」なんて、大陸の手作り餃子をなめてはいけません。分厚い皮に、はちきれんばかりの具。大して噛まなくてもパクリと一口で飲み込めてしまうような普段見慣れた日本の餃子とは、別次元の食べ物です。「ボリューム3倍、噛みごたえ10倍」といったところでしょうか。大食漢の私が、朝食を抜いて、お腹を空かせて挑んだはずなのに、4個目あたりですでに満腹感が漂い始めます。でも、本場の手作り煎餃を頂けるせっかくの機会、何とか8個ほどを胃に詰め込みました。煎餃に飽きた時には、お口直しに副菜を頂きます。鶏肉の冷菜とミミガー（ブタの耳：日本では沖縄料理の代表的料理）の冷菜。こちらも美味でしたが、少々味の素がキツすぎるかな。いやいや、お腹いっぱい。満足満足！

食事の後は、後片付け。準備には間に合わなかった分、後片付けには精を出しました。後片付けでも、皆さん、なかなかのチームワークに見えるのですが、少々雑なのが、玉に瑕。「来た時よりも美しく」を、ここで浸透させるのは、なかなか困難。とは言え、こういう場面で活躍してこそそのボランティア、そして適材適所（笑）。来たとき程度にはきれいに戻して、料理の日は終了。美味しく楽しいひと時でした。

帰国者の皆さんの手作り料理は、本当に美味。そして、噛めば噛むほど味が出る。中国と日本という異なる社会・文化の中で、様々な経験を積んで生きてこられた帰国者の皆さんと同じだな、と改めて感じました。（ボランティア、大阪大学大学院・博士後期課程 小笠原 理恵）

◆映画鑑賞会

帰国者交流会で7月21日に神戸映画資料館にて映画を鑑賞しました。以下の映画を見た中国残留邦人帰国者二世のご家族の方の感想文です。一所懸命辞書を調べて書いているのが伝わってくるので、ほぼ原文通り掲載します。

映画「おしん」の感想

この映画を見ました。後、私の心がとても悲しくて、涙が止まらなかった。昔の皆さん生活すごく御難と貧乏な家に生れたのおしんさんのご家族は衣食不足、毎日食料と服とお金もなかった。貧困飢餓だからおしんのお母さんが自分のお子さんを食料のため奉行に行かせる、7才のおしんさんはお金もち富豪家に働くが始まる。こんな小さい年らしいなので大変でしたね。その働くをおしん泣き寝入りです。おしんずいぶん苦勞をしたんだ。

おしんのお母さんは生活貧困と飢餓だから河中に自殺する。年老、体が衰弱病気のおばあさん食べ物と薬をなかったので亡くなった。おしんさんととても悲しかったでした。

戦争の年代非常な年代でしたが、．．．．．。

時代の変わり戦後の日本国民経済発展と復興はやいですから、昔の子どもに対する今の子どもたち幸せらしいですね。

現今みんな生活が楽しく老後を幸せにくらすと思います。

今後私たちは日本語と娯楽活動を頑張ります。

(帰国者二世配偶者 陳 秀 英)

■■■ グループホーム・小規模多機能型居宅介護八ナ ■■■

◆本場のキムチ

8月17日(月)に、グループホームでキムチ作りをしました。

前日から、韓国出身の職員が、材料の白菜やニラ、りんご、にんにく等の食材と調味料を買い出しし、夜勤の間に、白菜を漬け込んで準備をしてくれました。

当日は、97歳Aさん、94歳Mさん、90歳Kさんという全員90歳以上の在日韓国人の八レモ二たちが参加してくださいました。90歳のMさんは、前日の夜に白菜を漬け込んでいる段階から興味深々で、「もっと漬けなあかん」など、職員にアドバイスを下さっていたようです。私たち職員の心配は、キムチが家庭によってつけ方が異なり、味の好みも違っているであろうことです。特にKさんは味へのこだわりが強いようで、Aさん、Mさんと言ひ合いにならないかと、ひそかに危惧していました。

いざ当日。AさんとKさんはグループホーム入居者、Mさんは小規模多機能型居宅介護の利用者の為、当日の午前中に八ナに来られるとの事でした。キムチ作りは、中心となる職員の勤務の都合上、午前9時にスタートしたため、Mさんは到着し次第参加してもらうことにしました。

私自身が最も驚いたのは、97歳Aさんの反応です。Aさんは5月にグループホームに入居されましたが、あまり自分から意思表示をしたり、積極的に何かをするタイプではありませんでした。職員が依頼すれば、お手伝いもしていただけますが、日中は居室で横になっているほうが多い方です。居宅サービス利用時より、3年近く関わってきましたが、徐々に体力や意欲が低下していくご本人を複雑な思いでみてきました。

それが、キムチ作りの材料を目の前にして、じっとその材料を見つめていると思ったら、おもむろに手を伸ばし、にんにくやりんごを手に取り、包丁を握って切り始めたんです。私は、まさか、まだ包丁が使えるとは思っておらず、普段の食事の下ごしらえの時も、他の利用者には包丁

を渡しても、Aさんにはピューラーで皮をむいてもらっていました。それが、力強い包丁さばきでりんごを切り、にんにくを切ってくださいました。それだけでなく、職員が材料をミキサーに入れるのを見て、「そんなに入れたら、ミキサー回らへんで」と、何度か職員に言われていました。Mさん、Kさんが白菜を切り、大きなボールに入れてヤンニョム（唐辛子等の調味料）で混ぜ込む時は、最年少90歳のKさんの独壇場。94歳のMさんは、あんな混ぜ方と違うのに・・・といいながら、97歳のAさんとじっと見守っていました。

そこからが、味付けをどうするかです。本当に面白かったのですが、90歳と94歳のハレモニが「味の素を入れる、入れない」「塩を足す、足さない」でちょっとした論争になっていたのですが、横から97歳のAさんが「塩を入れろ！」と一言言うと、その論争がぴたっと止まったんですね。

職員が塩を足すのを何も言わずみていました。年長者を敬う韓国・朝鮮の民族性を見た気がしました。

Aさん貫禄がちです。味見をして「まだ塩が足りん、もっと塩！」とAさんが言うため、Mさん、Kさん、職員が従います。普段、あまり意思表示が無く、元気が無いと思っていたAさんの底力を見た思いがし、私はもちろん、その場にいた職員は胸が熱くなりました。

そして、ハレモニたちが味付けして作ったキムチは、今まで食べた事が無いぐらい美味しかったです。

まさに、本場の味！今まで、食べていたのは、日本人の味覚に合わせたキムチだったのだと気づかされました。

また、キムチ作りをしたいと思います。機会があれば、『ハレモニたちが作ったキムチ』をいろんな人達に食べていただきたいです。本当に美味しいキムチでしたから。（グループホームハナ森 佳緒里）

■■■ ハナの会 ■■■

◆「ハナの会」買い物難民への取り組み

買い物難民というのは一般的に過疎化で商店が撤退・廃業したり、高齢で行動範囲が狭くなったりして、食料品や生活必需品の買い物に困る人々を言います。

デイサービスセンターハナの会利用者の中には阪神淡路大震災の被害を受け、居住していた長田から、神戸周辺の公営団地に住んでいる方々がいます。その中でも、住んでいる地域によって坂道を登り、バス停まで行ってバスで買い物に出かけざるを得ず、高齢化に伴い体力が衰え、買い物難民になりつつある方が増えています。そこで、ハナの会は立地の良さを活かし、デイサービスの利用中に買い物プログラムを行うことにしました。それが利用者の歩行など機能訓練になり大変好評を得て現在はほぼ毎日利用者と共に買い物に出かけています。利用者のA氏は、最初車椅子でスーパーまで行ってスーパーの中では杖で買い物していましたが、2ヶ月の買い物プログラムを経て、車椅子を使わずに買い物に行けるようになりました。ですが、多様な買い物ニーズに答えるのは、お風呂・食事・リハビリ・レクの通常業務を常に行っている介護現場で対応するのは簡単ではありません。

介護業界では、買い物はほとんど訪問ヘルパーが代行で行っています。しかし、長年生活してきた習慣や好みがあり、食材などを自分で見て選びたいとの願いはごく自然なことです。高齢者はヘルパーに買ってもらっていることに感謝する一方、自分自身で選べない（或いは選ぶことが出来なくなった）というストレスを抱える方も多くいます。自分の人生を振り返り、戦争や自然災害などを逞しく乗り越えてきた方々が今の自分は情けないと思う気持ちが私は分かる気がします。だから、限られている時間ですが、一緒にスーパーへ行って自分の好みの食品を納得する値

段で選ぶことを応援しています。またこれは、利用者の認知機能の維持と機能訓練に繋がる一石二鳥の取り組みです。このようにハナの会では、利用者の機能訓練と生活支援を組み合わせながら、安らぎと幸せを提供することをスタッフ一同で取り組んでいます。

つい最近日本列島を台風11号が横断した時のことです。ハナの会は利用者に「台風で臨時休み」と伝えたところ、A氏は「困ります。食べ物が無いのです。どうしてもだめならタクシーに乗って買い物へ行くわ」と、B氏は「台風の次の日に行ってもいいか」と言われました。それに対して利用日を一日ずらして対応しました。それは、ハナの会の買い物プログラムがその方々の生活の中で無くてはならない存在になっていることに改めて私たちスタッフが気付かされた出来事でした。

現在、ハナの会はこの活動に賛同していただけるボランティアの方を4月から募集していますがなかなか集りません。最後に私たちと一緒に買い物活動に参加して頂ける方のご紹介をお願いします。（呼和徳力根）

■■■ 今後の予定 ■■■

◆今後の予定

■KFCボランティア&スタッフ交流会

10月18日(日) 11:00~

於 民団兵庫県本部5F

■日本語プロジェクト研修会

9月29日(火) 書道体験

10月11日(日) 料理交流会

10月29日(木) 料理交流会

■KFC新長田交流会

9月22日(火) 敬老会

9月29日(火) 農園体験

10月13日(火) 映画鑑賞会

10月27日(火) 農園体験

■ベトナムデー

9月17日(木)、10月15日(木)

於 デイサービスセンターハナの会